

# 平成28年度新産業戦略協議会の進め方と論点

平成29年2月22日

内閣府

政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付  
産業技術・ナノテクノロジーGr.

## 【ターゲット】 ものづくり・コトづくりの競争力向上

- 1．日本のものづくりの強みである現場起点の最強化を追求
- 2．海外の強みであるコト作りの具体的育成施策を検討

## 【具体的検討事項】

- 1．最終的に目指すシステム全体のゴールイメージの共有
- 2．従来システム、国内外で整備が進行中の先行システムとの差分明示
- 3．新たなものづくりシステム実現のための具体的提案

# 新産業戦略協議会（ものづくり）の進め方

回数	開催日時	主要議題と進め方(案)	
第5回 (H28年度 第1回)	1/5(木) 15:00～17:00 @4号館 共用第3特別 会議室	○ 新たなものづくりシステムの全体像の議論と共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>u 新たなものづくりシステムの全体像の共有と課題の抽出 &lt;プレゼン&gt;</li> <li>・安井座長:全体像のイメージ案</li> <li>・藤嶋委員:IoT化の現状と将来</li> <li>・菅野委員:計測・制御・システムの視点から見たものづくりの課題</li> </ul>
第6回 (H28年度 第2回)	2/22(水) 13:00～15:00 @4号館 共用第3特別 会議室	○ 新たなものづくりシステムの全体像の議論	<ul style="list-style-type: none"> <li>u 第5回を受け、各委員からシステム全体像の意見をいただき、システムの全体像の議論 課題の抽出 &lt;プレゼン&gt;</li> <li>・CRDS 高島委員:新たなものづくりシステムの実現化に向けて</li> <li>・安川電機 南委員:新たなものづくりへ向けての最新の活動動向</li> <li>・東京大学 新野先生:付加製造技術の最新動向と今後のものづくりシステムへのインパクト</li> </ul>
第7回 (H28年度 第3回)	3/6(月) 15:00～17:00 @4号館 共用第3特別 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たなものづくりシステムの全体像の取りまとめ</li> <li>○ 中堅・中小企業のIoT化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>u 新たなものづくりシステム実現に向けての課題と対応策</li> <li>u 中堅・中小企業のIoT化の課題と対応について議論 &lt;プレゼン候補&gt;</li> <li>・名工大 橋本先生:IOTの革新性と制御システムの将来像</li> <li>・中島委員:IoT化時代に中小企業が目指すべき方向性</li> <li>・経産省:中小企業のIoT化推進の取組(P)</li> </ul>
第8回 (H28年度 第4回)	3/22(水) 15:30～17:30 (3/13から変更)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たなものづくりシステムを支える基盤技術</li> <li>○ 総合戦略2017への提言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>u 新たなものづくりシステムを支えるナノテク・材料について議論</li> <li>u 第7回の議論を受け、総合戦略2017に書き込むべき項目について、提言を取りまとめ</li> <li>u 自動走行取りまとめ結果の報告(葛巻副座長)</li> </ul>

総合戦略2017への提言

現場起点のものづくり力では依然として強みを持つが、新しい成長ビジネスを生むコトづくりに強みがある欧米が、今後スマート化された機械、製造ラインを活用して競争力を強めることが想定される。

機械、製造ラインのスマート化では各社内での取り組みは先行。業界全体、海外との連携は整備必要、先進デバイスでは欧米に出遅れ

モデル表現は米国を中心にAI活用のデータ解析が先行、欧米中がモデル化で先行、キャッチアップが必要

グローバルの標準システムでは欧米がデファクトスタンダード化を推進中、国としての対応スタンスの確立が必要

スマート化されたバリューチェーンを活用した新しいビジネス育成は特に米国企業が先行しておりキャッチアップが必要

大学、研究機関を巻き込んだエコシステムの整備は、欧米に大きく出遅れ

中小企業を中心とした新しい差別化手段の配備は開発・配備の加速が必要

我が国の現有の財産としての『ものづくり』の強みを最大限生かしてグローバル事業展開を進めることに加えて、その強みを生かし、『コトづくり』も念頭入れた新しい成長ビジネスの育成を進める必要がある。

製造全体は、スマート化（IoT/AI化）された機械、製造ラインを活用したネットワーク型が志向されていく。その中で勝ち残るためには、

機械、製造ラインのスマート化での先行、スマート化を実現するためのFPGA/GPUなどのデバイスの先行活用

モデル表現での先行性アピール

グローバル標準の情報システムへの対応

上記スマート化された先行製造ネットワーク活用による新ビジネスの創造

大学、研究機関を巻き込むエコシステムなどの整備

中小、中堅企業を中心に3Dプリンタ、レーザなどの新しい差別化手段の配備